

第4回 総括検討会 議事録

1. 開催日時：平成17年11月18日（金）13：30～17：00

2. 開催場所：（社）日本電気協会 4階D会議室

3. 出席者：（順不同，敬称略）

- 委員：柴田主査（東京大学名誉教授），原副主査（東京理科大学），久保副主査（東京大学），白井幹事（関西電力），秋野，石崎（竹中工務店），遠藤（日本原電），金谷（関西電力），久野（中部電力），清水（大林組），中川（日立），中島（東芝），吉賀（三菱重工業），森山（大成建設）（計14名）
- 代理出席：田中（原子力安全基盤機構・市橋代理），福島（鹿島建設・兼近代理），小川（清水建設・武田代理），山崎（東京電力・野田代理），西村（東京電力・土方代理）（計5名）
- 欠席委員：金津（電中研）（計1名）
- オブザーバ：市園・清浦（東電設計），小江（関西電力），杉山（東京電力），室田・戸村・北村（日本原電）（計7名）
- 事務局：浅井・堀江・肥後・福原（日本電気協会）（計4名）

4. 配布資料

- 資料 No.4-1 総括検討会委員名簿（案）
- 資料 No.4-2 第3回総括検討会議事録（案）
- 資料 No.4-3-1 資料 No.3-3-1 JEAG4618 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針 機器支持定着部評価法編 制定案
- 資料 No.4-3-2 JEAG4618 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針 機器支持定着部評価法編 制定案 概要説明資料
- 資料 No.4-4-1 各検討会の役割及び運営について
- 資料 No.4-4-2 JEAG4601 改定案 執筆要領
- 資料 No.4-4-3 JEAG4601 改定案の分科会審議項目について
- 資料 No.4-5-1 JEAG4601 改定案 第3章 耐震設計で考慮する地震と地震動 3.5 津波評価の概要
- 資料 No.4-5-2 JEAG4601 改定案 第3章 耐震設計で考慮する地震と地震動 3.5 津波評価
- 資料 No.4-6-1 原子力発電所耐震設計技術指針 第6章 改定の基本方針と主な改定内容
- 資料 No.4-6-2 原子力発電所耐震設計技術指針 第6章 建物・構築物の耐震設計（案）
- 参考資料 - 1 第10回耐震設計分科会 議事録（案）

5. 議事

（1）代理出席者の承認及び前回議事録の確認

事務局より、本日の出席者は、委員14名，委員代理5名，欠席2名であり、規約上、

決議に際して求められる委員総数の 2/3 以上の出席であることが報告された。また代理出席者及びオブザーバの検討会参加について規約に基づき柴田主査の了解を頂いた。資料 No.4-2 に基づき、前回議事録(案)について紹介があり、特にコメントなく了承された。

(2) 検討会主査の選任、及び副主査・幹事の指名について

柴田主査は前回選任以降、任期 2 年を経過したため、規約に基づく主査選出手続きを行った。主査候補として柴田委員が推薦され、その他候補者の推薦がないことを確認した後、挙手による決議を行った結果、委員総数 21 名、出席委員 19 名のうち候補者本人を除く全員の賛成で、柴田委員が主査に選出された。また、柴田主査より、副主査として原委員、久保委員が、幹事として白井委員が指名された。

(3) JEAG4618 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針 機器支持定着部評価法編(案)の審議

11 月 11 日機器・配管系検討会で決議され、次回耐震設計分科会上程が予定されている題記案件について、資料 No.4-3-1,2 に基づき紹介が行われた。本件については既に機器・配管系検討会で決議されているが、本日のコメントを反映した上で、次回 12 月 9 日耐震設計分科会に諮ることとなった。

本件に関する主な意見は以下のとおり。

- (1) i ページ 本指針の構成 他について、「本指針」という記載があるが、本指針とは建物・構築物編も含めての表現であり、機器支持定着部編に対して使用するの是不適切。適切な表現に見直すこと。
- (2) 4 ページ 図 1.1.2-1 サポート定着部の範囲例について、サポート定着部の範囲が不明確である。定着部の範囲が明確になるよう図示すること。
- (3) 6 ページ 1.2 評価の基本方針 解説(4)について、指針で取扱うサポート種類が解説に記載されているが、本文に記載すべきではないか検討のこと。
- (4) 7 ページ 図 1.2-1 表面鋼板直付方式におけるサポート定着部の荷重伝達機構について、指針で取扱うサポート種類は、角型鋼管、山形鋼、溝型鋼としているが、本図で示しているサポートは丸パイプに見える。誤解を与えない記載を工夫すること(その他の図についても同様)。
- (5) 8 ページ 図 1.2-2 自由位置方式による表面鋼板直付方式のサポート(例)について、本図で示しているスタッドの寸法・プロポーションが実設計で想定しているものと異なっていると思われる。実設計のイメージが分かるように寸法・プロポーションを適切に図示すること。また、サポートの溶接部分の図示についても、指針で念頭に置いている施工法に合わせて適切に記載のこと。サポートの溶接施工上の管理について、指針で取扱う必要はないか検討のこと。

(4) JEAG4601 改定案の審議

資料 No.4-4-1 に基づき、白井幹事より JEAG4601 改定案審議における分科会及び各検

討会の役割及び運営案が示され、特に反対意見なく了承された。これより、今後分科会に改定案を上程する前段で総括検討会に諮ること、また総括検討会では各検討会との調整などを行うが、決議は各検討会の決議を尊重し総括検討会としては行わないこと、などが確認された。

資料 No.4-4-2 に基づき、遠藤委員より JEAG4601 改定案の執筆要項が示された。主な意見は以下のとおり。

- a . 改定案中の数式の記述について、また改定審議中の資料データの扱い等について執筆担当の負担軽減を目的として、各検討会幹事とルールを定めること。
- b . 本文添付の解説は、その位置付けが明確でないとの意見があり、今後検討いただくこととなった。

資料 No.4-4-3 に基づき、白井幹事より分科会審議案件及びスケジュールが示された。本件は審議の進捗により逐次調整を行っていくとのこと。12月9日耐震設計分科会では第3章のうちの津波水位評価及び第6章のうちの材料、構造計画と構造設計、地震応答解析を審議対象とすること、またその他の今後のスケジュールについて紹介があり、了承された。主な意見は以下のとおり。

- a . 資料中 6.6 項のタイトル『耐震性の確認』とあるが、コンテンツは耐震余裕度の確認であり、誤解が生じないようにタイトルを修正する。
- b . 改定案目次には地震応答解析も含めた燃料集合体の耐震設計に関する記述がないが、他の機器と同様の扱いとして『地震応答解析』, 『許容基準』の各項で対象機器として分散させている。
- c . 前項の意見に関連して、目次については分科会で審議はしておらず、紹介に止まっているため、次回以降の分科会で準備でき次第審議頂く事とする。

資料 No.4-4-1,2 に基づき、金谷委員(土木構造物検討会幹事)より次回分科会審議案件の概要が紹介された。本案は11月25日に第5回土木構造物検討会で審議の後、分科会に持ち込む予定。主な意見は以下のとおり。

- a . 今後、機器・配管検討会において、スマトラ沖地震におけるインド マドラス発電所の津波に起因する海水ポンプ停止についてその原因を確認するとともに、「3.5 津波水位評価」で与えられる波高計算の結果を反映したポンプ機能維持の方策などの取り扱いを整理する必要がある。

資料 No.4-5-1,2 に基づき、石崎委員(建物・構築物検討会委員)より次回分科会審議案件の概要が紹介され、特に意見なく了承された。

(5) その他

次回総括検討会は、JEAG4601 改定作業の進捗及び今後の分科会開催日程等を勘案し、改めて日程調整を行う予定とした。

以上